

## 板倉家ゆかりの当世具足

「日の丸金箔押紺糸威二枚胴具足」は備中  
松山藩主板倉家の祖・板倉勝重のものとして  
伝えられた当世具足(甲冑)です。胴、袖、籠  
手、佩楯に金箔をはり、面頬、臙当は朱の漆  
を塗った豪華なものです。兜は山鳥の羽根で  
おおわれ、高さ七〇センチにも及ぶ鳥毛の後立が  
あります。

板倉勝重(一五四五〜一六二四)は江戸時  
代初期の京都所司代。三河国額田郡(現愛知  
県)で生まれました。幼少のころ出家してい  
ましたが、天正九年(一五八一)還俗(※)して  
家を継ぎ、徳川家康に仕えました。主に内政  
面で貢献し、慶長八年(一六〇三)家康が征  
夷大將軍になると、正式に京都所司代に就任  
し、徳川幕府のもと、京都・近畿をはじめ、  
西日本全体の統制に力を尽くしました。寛永  
元年(一六二四)京都堀川の邸宅で亡くなり  
ました。

寛政五年(一七九三)板倉勝政(一七五九

〜一八二一 勝重から十代  
目、備中松山藩四代藩主)  
は板倉勝重まつるために八  
重籬神社を建て、この具足を  
納めました。はじめ神社は備  
中松山城御根小屋内の馬場  
にありましたが、文政十三年  
(一八三〇)現在地(高梁市  
内山下)へ移されました。  
以来、この具足はほとんど完  
全なかたちで伝えられてい  
ます。

「赤黒片身替白糸威二枚  
胴具足」は二代板倉重宗のも  
のと伝えられた具足です。胴は赤と黒の漆を  
中央で塗り分けたデザインで、白糸で細かく  
つづり、赤黒白の三色を基調としています。  
袖、佩楯、臙当は茶色の漆で統一され、兜は  
蒙古鉢と呼ばれる形で、表面に雲龍の模様  
が銀象嵌(※)されています。籠手は左右一体で、  
六角の小型の鉄板に金箔をはり、それを縫い  
込み、手の甲には家紋九曜巴が刺繍されてい  
ます。

板倉重宗(一五八八〜一六三八)は江戸時  
代前期の京都所司代。板倉勝重の嫡男として  
駿府(現静岡県)で生まれました。二代將軍  
徳川秀忠に仕え、元和六年(一六二〇)父勝  
重の跡を継ぎ、京都所司代となりました。寛



岡山県指定重要文化財  
日の丸金箔押紺糸威二枚胴具足  
桃山時代  
高梁市蔵／八重籬神社旧蔵  
寸法(cm) 胴高34.0 兜高36.0  
一領



岡山県指定重要文化財  
赤黒片身替白糸威二枚胴具足  
江戸時代初期  
高梁市蔵／八重籬神社旧蔵  
寸法(cm) 胴高41.0 兜高8.5  
一領

永十年(一六三三)の領地が五万石となり以  
後、板倉家は五万石の譜代大名となりました。  
三十五年の間、所司代職にあり、京都の施  
政や西国統治を任されていました。また、こ  
のころの文化人としても知られています。明  
曆二年(一六五六)下総関宿城(現千葉県)  
を賜りましたが、同年関宿で亡くなりました。  
勝重の具足と同様、市内の八重籬神社に伝え  
られ、この具足のほか、替え兜、籠手、佩楯、  
采配、腰桶などの付属品も残されています。  
※還俗 一度僧となった者が世俗にもどること。  
※象嵌 金属などの面に模様をきざみ、金、銀な  
どをはめ込む細工技法。

(文・歴史美術館学芸員 加古一朗)

※6月号に誤りがありました。お詫びして訂正します。 2段最終行：褶曲→褶曲

編集と発行(毎月15日発行)高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な  
水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキ  
を使用しています。

再生紙を使用しています。